

稲羽西小学校の「なるほどシリーズ」 1

なぜ二宮金次郎の石像があるのでしょうか

稲羽西小学校の中庭には、二宮金次郎の石像があります。この石像、どうしてこの学校にあるのでしょうか。まず、二宮金次郎とはどんな人物なのでしょうか。

二宮金次郎（二宮尊徳）は、江戸時代、小田原（神奈川県）近くの村の農民の子として生まれました。金次郎は、朝暗いうちから夜おそくまで、汗と泥にまみれて一生けんめいに働きました。勉強が好きで、余裕ができればわずかな時間もむだにしないで勉強をしました。文字を学ぶため、箱に砂を入れ、棒で書いては消すことをくりかえしたと伝えられています。貧しかった金次郎ですが、荒地をたがやして米をつくり、あまった米をお金にかえ、お金がたまると土地を買うことをくりかえし、23歳の若さでりっぱな土地もちとなりました。金次郎は一生を世の中のためにささげ、大ききんで困っていた関東や東北の多くの農村や藩のために働き、多くの人々を救ったということです。

徳目別国定教科書（修身）で取り上げられた人物

徳目	人物名
孝行	二宮金次郎・渡辺登・おふさ・楠木正成、上杉鷹山
勉学	二宮金次郎・渡辺登・新井白石・リンカーン
兄弟	二宮金次郎・渡辺登
自立	二宮金次郎・渋沢栄一・フランクリン
勤勉	二宮金次郎・高田屋嘉兵衛・伊能忠敬・フランクリン

徳目数23のうち以上の5項目で取り上げられています。

稲羽西小学校の二宮金次郎の石像を調べてみると、昭和10年（1935年）に地域の方々の寄付によって敬格尋常小学校の敷地に建てられています。

その記録は、本校所蔵の寄付台帳に次のように残っています。

二宮金次郎は、「一生懸命努力する」「はたらくことを惜しまない」等、日本人が大切にしている姿をたくさん持っていた人なので、修身（現在の道徳）の教科書にたくさん取り上げられていたのです。そのために、1945年（昭和20年）よりも前につくられた学校には必ずと言ってよいほど、二宮金次郎の石像が現在でも残っています。

国定教科書に載った人物 ランキング

順位	人物名	回数
1	明治天皇	191
2	二宮金次郎	18
3	上杉鷹山	15
4	渡辺登	12
5	加藤清正	11
6	フランクリン	11
7	豊臣秀吉	7

昭和十年五月一日

一、金五拾五円(55円) 二宮尊徳石像並びに築山及び池 造成事業に

寄付者 今尾唯市

全年(昭和十年のこと)六月十八日

一、金五円 二宮尊徳像周辺池造成事業に

寄付者 尾関新七



↑ 本校中庭の二宮金次郎石像

二宮金次郎については、少年時代の薪(たきぎ)を背負(せお)い歩きながら読書する姿が有名です。この姿は1891年(明治24年)刊行(かんこう)の『二宮尊徳翁(おう)』(幸田露伴著(こうだろはんちよ))に初めて挿絵(さしえ)として掲載(けいさい)されています。

1904年(明治37年)以降(いこう)、修身(しゅうしん)の国定教科書に、少年期の金次郎(二宮尊徳)が模範(もはん)的な少年として、数多く登場するようになりました。それは、一生懸命勉強し、家庭の仕事を手伝い、より良い生活をめざす人間としての模範的

な姿でした。

このことにより昭和に入ってから全国の学校の校庭に少年時代の二宮金次郎像が次々に建てられるようになりました。(昭和20年まで)

本校の場合もその流れの中で、学校の敷地の中に建てられたのです。